

令和7年10月3日

第3学年保護者 様

加古川市立氷丘中学校
校 長 加 藤 勉

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の返却及び結果の概要について

秋麗の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、4月16日、17日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が返送されてまいりました。1学期に、お子様の調査結果(個人票)を返却しております。

今回、調査結果(個人票)に示されているのは、学力の特定の一部分ではありますが、これまでの学習等の成果や取組状況について、お子様とともに改めて確認する機会にしていただければと思います。また、今年度の本校3年生の結果の概要は下記のとおりです。詳細については、ホームページをご覧ください。

記

1 学力調査の結果から

本校3年生全体の平均正答率は、全国及び県平均と比較すると、国語、数学とも全国及び県平均を上回っていました。特に、国語では思考力、判断力、表現力の中では、「書くこと」において良好な数値を示しています。数学では「関数」について良好な数値を示しています。2教科とも短答式の正答率が高い傾向にあります。国語では「文章の全体と部分の関係に注意し、登場人物の設定を捉える」こと、数学では「数学的な表現を用いて説明する」ことに課題が見られました。授業の中でそれぞれに取り組む機会を設定し、改善に取り組むたいと考えております。理科では、平均正答数集計値で、全国及び県平均を上回っています。すべての問題において正答率が全国及び県平均を上回っていました。ただし、「小学校で学習したことと中学校で学んだことを関連付けて理解していく」ことには課題が見られましたので、授業の中でも知識を関連付けていく指導を心がけ、発問の工夫に取り組むたいと考えています。

2 質問紙調査の結果から

ICTを活用した学習の機会は十分確保できていることがわかりました。家庭で、学習に取り組んでいる生徒が多く、全国・県の平均と比べてよく勉強している傾向が見られました。「学校に行くのは楽しい」と思う、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談」できる、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思うと答えた生徒は、県・全国平均を大きく上回っていることがわかりました。学校としても生徒の生活の安心感向上に継続的に取り組んでいきたいと考えています。一方で、自分と違う意見について考える楽しさを感じられていないことが分かったので、今後、学校の授業の中で、多様な意見について話し合う機会を増やすなど、協同的探究学習の理念に基づいた授業改善をいっそう進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでまいります。